

# くすのき



岡本小学校 学校だより

No.17

令和3年3月15日

『生き生き学校』



《学校教育目標》夢に向かって未来を拓く『おかもとの子』の育成

## コロナでも「できること」を

3月7日(月)から始まった「6年生を送るWeek」は、3月11日(金)の6年生による合唱の披露で幕を閉じました。岡本小学校は、感動の渦に包まれました。

以前、学校だよりでも紹介させていただきましたが、5年生を中心に、昨年末から「6年生を送る会」の準備が始まりました。コロナの感染が収まらず、互いに顔を会わせての代表委員会をあきらめ、オンラインによる開催となりました。オンライン代表委員会では、6年生に「ありがとう！これからは私たちにまかせてください！」の気持ちを伝えようということが決まり、各学年で準備することが決まりました。しかし、他にも越えなければならないいくつかの壁がありました。

□体育館で全校が集まることは難しい。どうやって感謝の言葉を伝えたり、プレゼントを渡したりする？

□6年生の合唱をビデオではなく生で聞きたい。どうしたらいい？

□6年生を送る会第2部のなかよし班遊びを今年もやりたい。1年生も6年生も楽しむため、そして、感染リスクを減らすためにはどうしたらいい？



1～5年生は、今年度も卒業式に出ることができません。ですから、全校の子どもたちにとっては、「6年生を送る会」は卒業式と同じくらいに大切な会となります。ですから、なんとしても実現したい…子どもたちの願いは、私たち教職員の願いでもありました。

そこで生まれた発想の1つが「6年生を送る会」ではなく、「6年生を送るWeek」にしようということでした。3月7日

(月)～11日(金)の5日間で、計画したイベントを分割して実施することで、密になることを防ごうという発想です。



月曜日～水曜日の中休みには、6年生と一緒に校内ウォークラリーを楽しみました。木曜日の長昼休みには、なかよし班ごとに決めた遊びを楽しみました。みんなが楽しめるようにルールを工夫したことで、「こんなに楽しいどろケイは初めて」という声も聞かれるほどでした。

そして、「6年生を送るWeek」最終日となる金曜日の3時間目は、いよいよクライマックス。1時間を3部構成にし、対面の時間を短縮したり、ビデオを活用したりすることで、感染リスクを抑える工夫をしました。

第1部は1・2年生と6年生が体育館で対面し、1・2年生によるビデオメッセージと一緒に鑑賞しました。

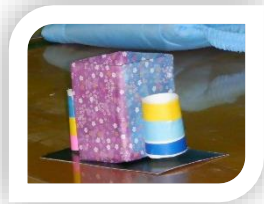
「6年生にありがとうの気持ちをたくさんこめて、しおりを作りました。」(1年生)  
「ドッジボールや鬼ごっこをして遊んでくれてありがとう。」(2年生)

第2部では、3・4年生によるビデオメッセージと5年生が制作したスライドを流し、時には笑いを交えながら、心温まる時間が6年生に届けられました。

「千羽鶴の折り方を丁寧に教えてくれてありがとう。」(3年生)

「桜のかざりを、心をこめて作ったので、ぜひ見てください。」(4年生)

第2部の最後には、1～4年生が協力して作ったペン立てを、5年生が6年生一人ずつに手渡しました。



第3部は、6年生が在校生に感謝の気持ちを伝える場面です。「互いに顔が見えるところで感謝の気持ちを伝えたい」という6年生の希望を叶えるために、グラウンドに全校が集まりました。6年生は、「群青」という素敵な歌を全校の前で披露しました。外で、しかもマスクをした状態で合唱をするというのは、とても難しいことです。しかし、6年生の歌声はとても美しく、真っ青な空に響き渡りました。

## 初リモート絵本の会

一人ひとりが真剣に一生懸命に歌っている姿に、聴いている私たちは胸がいっぱいになりました。

「本当に感謝の気持ちでいっぱいです。小学校生活の中で一番うれしかったです。ちょっと泣きかけました。ぼくたちのためにすばらしいものをつくってくれたので、とても嬉しかったです。」(6年生)



さまざまな人間関係におけるあたたかい心かよう体験は、学校づくりの原動力となります。コロナに負けず、年間を通してこうした人と人とが触れ合う体験を数多くさせ、やる気に溢れる生き生きとした学校づくりを実践してきました。「6年生を送るWeek」は、その集大成として、感動あふれる会となりました。

3月7日は、今年度最後の絵本の会でした。しかし、相変わらず学級閉鎖が続いており、中止にするか判断が迫られることとなりました。そんなとき、スクールコーディネーターさんから、「絵本の会をリモートで行うことはできませんか」

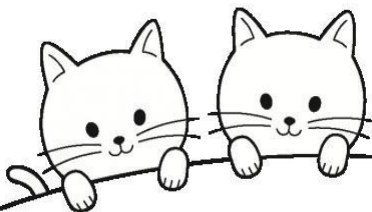
と、声をかけていただきました。

絵本の会の皆様の協力により、本の選定や予行練習を重ね、当日は全学級がリモートでつながりました。絵本の会の読み手の方は、

「子どもたちの表情が見えないので、いつもより緊張する」

と、おっしゃっていましたが、教室の子どもたちは、絵本の世界にとっぷりとひたることができました。

コロナに負けず、今年度も絵本の会を続けることができました。感謝です。



わたしのひとりごと…



先日、神明橋の上から狩川に目をやると、小さなカモが親鳥のあとを泳いでいる光景に出会いました。春になり、最近生まれたばかりの赤ちゃんカモでしよう。本日に健気かわいらしく、見ているだけで幸せな気分になりました。その光景を目にした翌日、今度は駒千代橋からふと狩川に目をやると、なんと大きなゴミ袋が2つ3つ捨てられているではありませんか。土手には下りられないので、取るにも取れません。

生まれればかりの赤ちゃんカモと大きなビニールごみ、とても悲しい気持ちになりました。

三月十一日の朝、臨時朝会を行いました。「6年生を送るWeek」で6年生が歌う「群青」は、東日本大震災がきっかけとなり生まれた曲です。十一年後の同じ日に、全校で「群青」の余韻に浸ることができるのは、ただの偶然とは思えません。東日本大震災のこと、ウクライナで戦争が起こっていること…私は子どもたちに伝えたいことがたくさんありました。

臨時朝会の後、三年生のある子どもが書いた作文です。

生きていることは、ありがたいことだと感じた。  
生きていることは、当然ではない。  
その命が、急になくなることもある。  
命がなくならないように、何をすればいいか考えて行動したい。  
行動はできなくても、考えられる。  
たぶん、校長先生が言いたかったことは、「命は大事」ということだと思う。

今、こうしているときも、ウクライナでは大事な命が失われつつあります。毎日ニュースで悲惨な現状を見るにつけ、怒りとやるせない気持ちでいっぱいになります。

カモとごみ、子どもと戦争…全く次元は違いますが、私には何か共通項があるように思えてなりません。  
なぜごみを捨てる？なぜ戦争をする？「なぜ？」「どうして？」を考えても、「ゴミはなくならないし、戦争もなくならない。ならば、私には何ができるだろう。」

未来ある子どもたちのために、「生きているのは当然な世の中、生きやすい社会を残してあげることが、我々大人の最低限の責務ではないかと思えます。今後も、学校・地域・保護者が互いに手を携え、子どもたちにとってより良い環境、生きやすい社会を創っていきたく強く思います。今後も、皆様のお力をぜひお貸しください。子どもたちの幸せと平和のために…」

学校だよりをお読みいただいた皆様、今年度も岡本小学校の支援者としてご協力いただきましたことに、心から感謝申し上げます。